



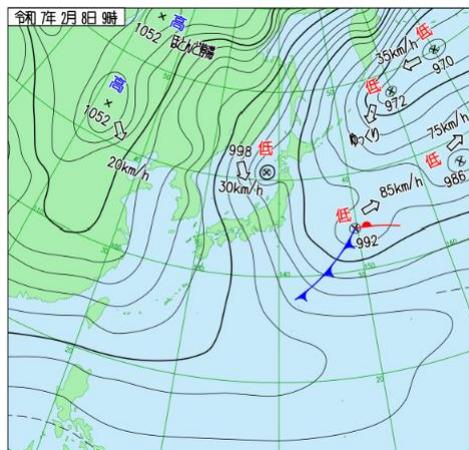
■俯瞰してみることに

2月になり、暖冬気分を一掃されるかのような大寒波が襲来しました。7日（金）～9日（日）には、氷点下となったり積雪が多くなったりすることもありました。公共交通機関や高速道路は、近年“予防的措置”のもと早めから運休や通行止めを行うことも多くなりました。今回も山陽方面へ向かう列車や高速バスは軒並み運休となり、利用者の足に大きな影響をもたらしました。実は私も

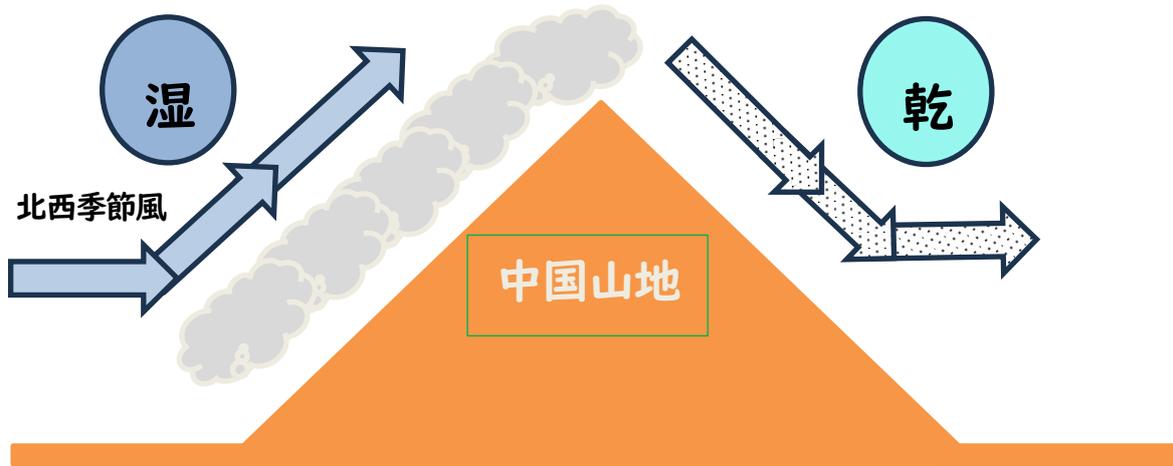
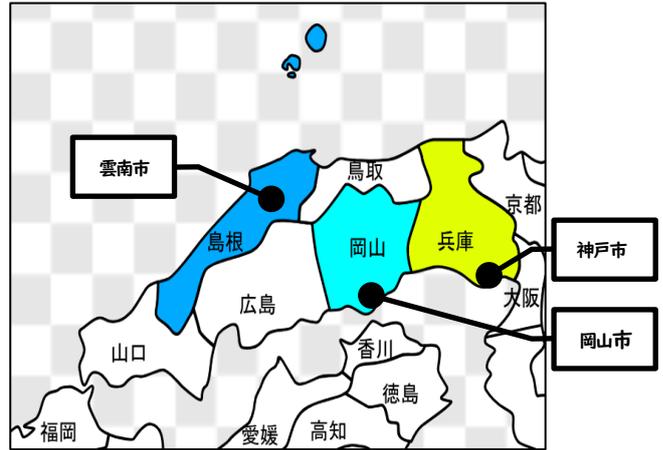
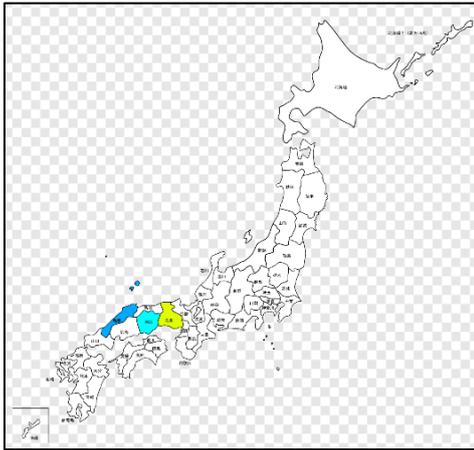
そのうちの一人でした。ちょうどその期間に山陽方面への出張があり、利用予定の列車や高速バスの突然の運休に頭を悩ませながら、何度もチケットの予約確認を余儀なくされました。

天気図を見るとわかるとおり、この期間は大陸からの季節風が日本に吹き付けるいわゆる「西高東低」の気圧配置となっています。山陰地方（日本海側）に住んでいると冬季の降雪・積雪は当たり前のこととっていますが、山陽地方（太平洋側）に住んでいる方々には、雪は降らないけれど気温は低い“冬晴れ”が当たり前のことでしょう。明治時代の小学校の教科書には「日本の冬は気温が低く乾燥しています。子どもたちは凧揚げやコマ回しをして遊びます。」と記述されていたそうです。これは、もちろん太平洋側の冬の様子を記したものですが、日本＝東京という時代を象徴したものといえます。限られた地域だけにいると、そこにある現象等が当たり前とってしまいがちですが、少し視点を高くすると地域による差異がわかりやすくなります。つまり、同じ気圧配置でも島根（日本海側）と岡山や神戸（瀬戸内側・太平洋側）では全く異なる風景が広がっていることがわかり、互いに「別世界」を意識することになるでしょう。島根（日本海側）に居住する者からすると、私たちのおかげで岡山や神戸（瀬戸内側・太平洋側）では降雪・積雪がないのですよと言いたい感じもしますが…。

狭い視野で物事をとらえるのではなく、視点を高くもって物事をとらえてみることに、つまり俯瞰（ふかん）してみることを意識すると、地域性や特殊性あるいは関係性といったものがみえてくるはずで、広い視野をもって物事を考える意識を持つことが、よりバランスのとれた思考につながると考えています



気象庁ホームページより



雲南市
(日本海側)

岡山市
(瀬戸内海側)



雲南市三刀屋町(アスパル)

岡山市(岡山駅)

[いずれも令和7年2月8日(土)]